



新年のごあいさつ

笠間市長 山口 伸樹

あけましておめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

また、平素より市政全般にご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返って

昨年の明るい話題としましては、本市在住の高校2年の畑岡奈紗さんが7月の世界ジュニアゴルフ選手権の優勝に続き、10月に開催された女子プロの樋口久子PONTAレディーストーナメントでは、アマチュア選手として史上初となるツアー初出場で首位発進し、最終成績7位の好成績でローアマチュアに輝きました。また、陶芸家の井上英基さんが、第23回日本陶芸展で最高位の大賞に輝き、県内では人間国宝の故・松井康成氏以来、2人目の受賞となりました。このようなスポーツや文化芸術での活躍は、私たち市民の誇りであり、大きな元気を与えてくれました。

市政におきましては、昨年3月に東、佐城、箱田小学校が笠間小学校に、東中学校が笠間中学校に統合され、新たなスタートを切りました。企業誘致においては、茨城中央工業団地(笠間地区)に初の企業立地が決定するとともに、長年の懸案であった県畜産試験場跡地へも、大型企業の進出が決定いたしました。また、新笠間市誕生10周年を記念してさまざまな事業を実施してまいりました。中でも、

合併後初めて開催した「かさま市民運動会」には、約4千人の市民が参加し、小学校区対抗の種目などで、世代や旧市町の枠を超えて大いに交流を深めたところで、来る3月19日には、記念式典を開催しますが、この10周年という記念すべき節目を機に、市民の皆様とともに笠間市の新たな歴史を築いて行けたらと切に願うものです。

これからまちづくり

さて、最近の地方を取り巻く状況ですが、政府は昨年末、「一億総活躍社会」の実現に向けた緊急対策や大筋合意した環太平洋経済連携協定(TPP)を受け、「総合的なTPP関連政策大綱」を決定したところであります。

本市としても、国の動向を踏まえて適切な対策を講じていくとともに、昨年10月に策定した「笠間市創生総合戦略」に掲げる、「住む人の希望をかなえる環境の構築」や「将来にわたって持続する都市の確立」などの基本目標のもと、全力で地方創生に取り組み、本市の更なる発展に努めてまいります。

まちづくりに向けては、「駅周辺の活性化」と観光交流拠点の賑わいを目的とした「笠間稲荷周辺の活性化」を柱に、それぞれの整備計画を推進してまいります。

駅周辺の活性化では、友部、岩間、稲田の3駅周辺を整備地区とし、友部地区では地域交流センターの建設、市立病院

の移設などを進めるとともに、岩間地区でも地域交流センター建設、旧役場跡地の活用等、稲田地区では駅前整備や歩行空間の整備等を進めてまいります。

なお、友部・岩間地区の地域交流センターは、子どもから高齢者まで気軽に集まり利用できる施設として順次工事着手しており、友部地域交流センターは平成28年末に完成予定となっております。また市立病院は、医療だけでなく、保健や地域包括ケア拠点機能を持つ施設として、平成30年当初の完成を目指して整備を進めてまいります。

また、人口減少対策として、子育て支援や移住サポートなど定住に向けた事業を展開してまいります。子育て対策では、笠間幼稚園とてらぎき保育所を一体化した認定こども園「かさまこども園」を本年4月に開園し、待機児童の解消に努めてまいります。移住サポートでは、一定期間滞在し笠間での暮らしを体験できるおためし移住事業を展開し、定住化を推進してまいります。

以上、まちづくりの一端を述べさせていただきましたが、未来に向けて着実に前進が図られるよう、職員一丸となって取り組んでまいりますので、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、市民の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。